

令和6年度(2024年度)年間授業計画表									
学年	2	コース	総合進学	選択形態	必修	科目	公共	単位	3
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめられる。</li> <li>・現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。</li> <li>・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする事ができる。</li> </ul>								
使用教科書	公共 新版(数研出版)	副教材	公共 整理ノート(数研出版)				予定時間数	105	
単元と内容									
1学期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚			<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できる。</li> <li>・古代ギリシアや中国の思想家の思想や三大宗教の内容が理解できる。</li> <li>・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できる。</li> </ul>					
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理			<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できる。</li> <li>・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できる。</li> </ul>					
	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理			<ul style="list-style-type: none"> <li>・法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できる。</li> <li>・民主政治のあゆみが理解できる。</li> <li>・日本国憲法の三大原理や第9条の内容が理解できる。</li> <li>・日本国憲法で保障されている権利が理解できる。</li> </ul>					
2学期	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割が理解できる。</li> <li>・行政機能が拡大している現状を理解できる。</li> <li>・選挙のしくみが理解できる。</li> <li>・政党の役割を理解できる。</li> <li>・地方自治の現状と課題が理解できる。</li> </ul>					
	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現			<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の企業の果たしている役割が理解できる。</li> <li>・市場経済のメカニズムが理解できる。</li> <li>・各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができる。</li> <li>・政府が経済に果たしている役割を理解できる。</li> <li>・金融・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できる。</li> <li>・戦後日本経済のあゆみが理解できる。</li> <li>・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できる。</li> <li>・私法・契約の原則やその修正について理解できる。</li> <li>・雇用・労働問題や社会保障について理解できる。</li> </ul>					
3学期	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力			<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できる。</li> <li>・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。</li> <li>・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できる。</li> <li>・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できる。</li> <li>・核軍拡から核軍縮への流れが理解できる。</li> <li>・現代の世界の紛争や人権問題について理解できる。</li> <li>・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できる。</li> <li>・戦後の国際経済の流れが理解できる。</li> <li>・地域経済統合が進んでいる世界の現状が理解できる。</li> <li>・外務省や国連のホームページなどを参照し、国際社会や各国の課題を知ることができる。</li> </ul>					
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち			<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に生きる私たちの課題を指摘できる。</li> <li>・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できる。</li> <li>・現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析できる。</li> </ul>					
評価									
評価の観点			評価の趣旨				評価対象		
							1学期末	2学期末	学年末
①	知識・技能		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				○	○	○

②	思考力・判断力・表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	○	○	○
③	主体的に学びに向かう態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○
評価方法	① 知識・技能		② 思考力・判断力・表現力		③ 主体的に学びに向かう態度
	定期考査 80%		定期考査 80%		各種提出・レポート 40%
	各種提出・レポート 20%		各種提出・レポート 20%		各種発表・まとめ 40%
					定期テスト 20%

令和6年度(2024年度)年間授業計画表									
学年	2	コース	総合進学	選択形態	全員	科目	日本史探究	単位	3
学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
使用教科書	詳説日本史探究		副教材	資料集・他			予定時間数	105時間	
単元と内容									
1学期	オリエンテーション		日本史学習の基本(世紀・年代・時代変遷等)						
	第1編 先史・古代の日本と東アジア		1章 先史社会の生活と文化 <ol style="list-style-type: none"> <li>旧石器時代の日本</li> <li>縄文時代</li> <li>弥生文化と小国家の形成</li> </ol> 2章 歴史資料と先史・古代の展望 <ol style="list-style-type: none"> <li>先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質</li> <li>東アジアとの興隆のなかでうかびあがる歴史</li> <li>木簡が語る律令国家の実態</li> </ol>						
2学期	第1編 先史・古代の日本と東アジア		3章 古代社会の形成と展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>律令国家の形成と古代文化の展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>大和王権と古墳文化</li> <li>飛鳥の朝廷と文化</li> <li>律令国家の形成と白鳳文化</li> <li>平城京と天平文化</li> </ol> </li> <li>摂関政治と貴族文化 <ol style="list-style-type: none"> <li>平安遷都と唐風文化</li> <li>貴族社会と摂関政治</li> <li>国風文化</li> </ol> </li> </ol>						
	第2編 中世の日本と世界		1章 中世社会の成立 <ol style="list-style-type: none"> <li>朝廷政治の変容</li> <li>武士の政治進出</li> </ol> 2章 歴史資料と中世の展望 <ol style="list-style-type: none"> <li>武家権力による日本社会の変容</li> <li>厳しい自然環境での人々の生存戦略</li> <li>中世日本の国際交流</li> </ol>						
3学期	第2編 中世の日本と世界		3章 中世社会の展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>武家政権の成立と朝廷 <ol style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府の誕生</li> <li>執権による政治</li> <li>モンゴル襲来と社会の変貌</li> <li>鎌倉の仏教と文化</li> </ol> </li> <li>武家支配の広がりや国際交流 <ol style="list-style-type: none"> <li>南北朝の動乱と室町幕府の成立</li> <li>倭寇と東アジア国際交流</li> <li>室町時代の社会と経済活動</li> <li>自立する戦国大名</li> <li>室町文化</li> </ol> </li> </ol>						
評価									
評価の観点			評価の趣旨				評価対象		
							1学期末	2学期末	学年末
①	知識・技能		教科書に登場する重要語句をインプットし、適切な場面でアウトプットできる。				○	○	○

②	思考力・判断力・表現力	知識を関連付けて、文化・制度・事件・事象などを自分なりに解釈して説明できる。また、習得した知識と理解した概念を関連付けて、自分の考えを表現することができる。	○	○	○
③	主体的に学びに向かう態度	教科書や資料集などを駆使しながら、インプットし、理解しよう理解しようと努力し協力することができる。	○	○	○

評価方法	① 知識・技能	② 思考力・判断力・表現力	③ 主体的に学びに向かう態度
	定期考査 75%	定期考査 50%	レポート 40%
	レポート 25%	レポート 30%	相互評価 30%
		グループワーク 20%	